

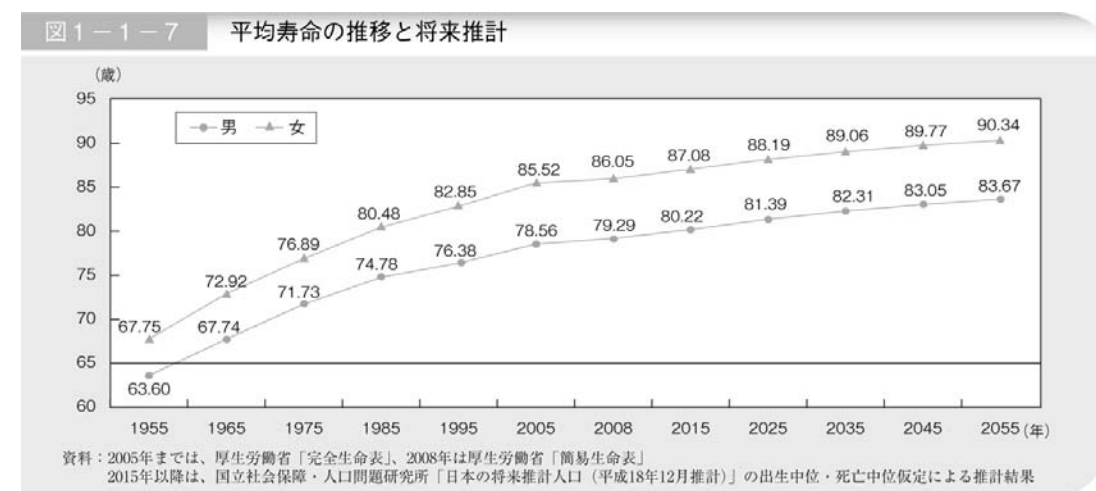
(表 1-1-6) をご覧ください。

	生産年齢人口 (15~64歳) を支え手とすると			15~69歳を支え手とすると	
	(a) 65歳以上を何人で支えるのか	(b) 70歳以上を何人で支えるのか	(c) 75歳以上を何人で支えるのか	(b)' 70歳以上を何人で支えるのか	(c)' 75歳以上を何人で支えるのか
昭和35 (1960) 年	11.2	18.8	36.8	19.5	38.2
45 (1970) 年	9.8	16.4	32.2	17.1	33.6
55 (1980) 年	7.4	11.8	21.5	12.4	22.6
平成 2 (1990) 年	5.8	8.8	14.4	9.3	15.2
12 (2000) 年	3.9	5.8	9.6	6.3	10.4
17 (2005) 年	3.3	4.6	7.2	5.0	7.9
21 (2009) 年	2.8	4.0	5.9	4.4	6.6
27 (2015) 年	2.3	3.2	4.7	3.6	5.3
37 (2025) 年	2.0	2.4	3.3	2.7	3.6
47 (2035) 年	1.7	2.1	2.8	2.4	3.2
57 (2045) 年	1.4	1.7	2.4	2.0	2.7
67 (2055) 年	1.3	1.5	1.9	1.7	2.2

資料：平成17年までは総務省「国勢調査」より作成、平成21年は総務省「人口推計」
平成27年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

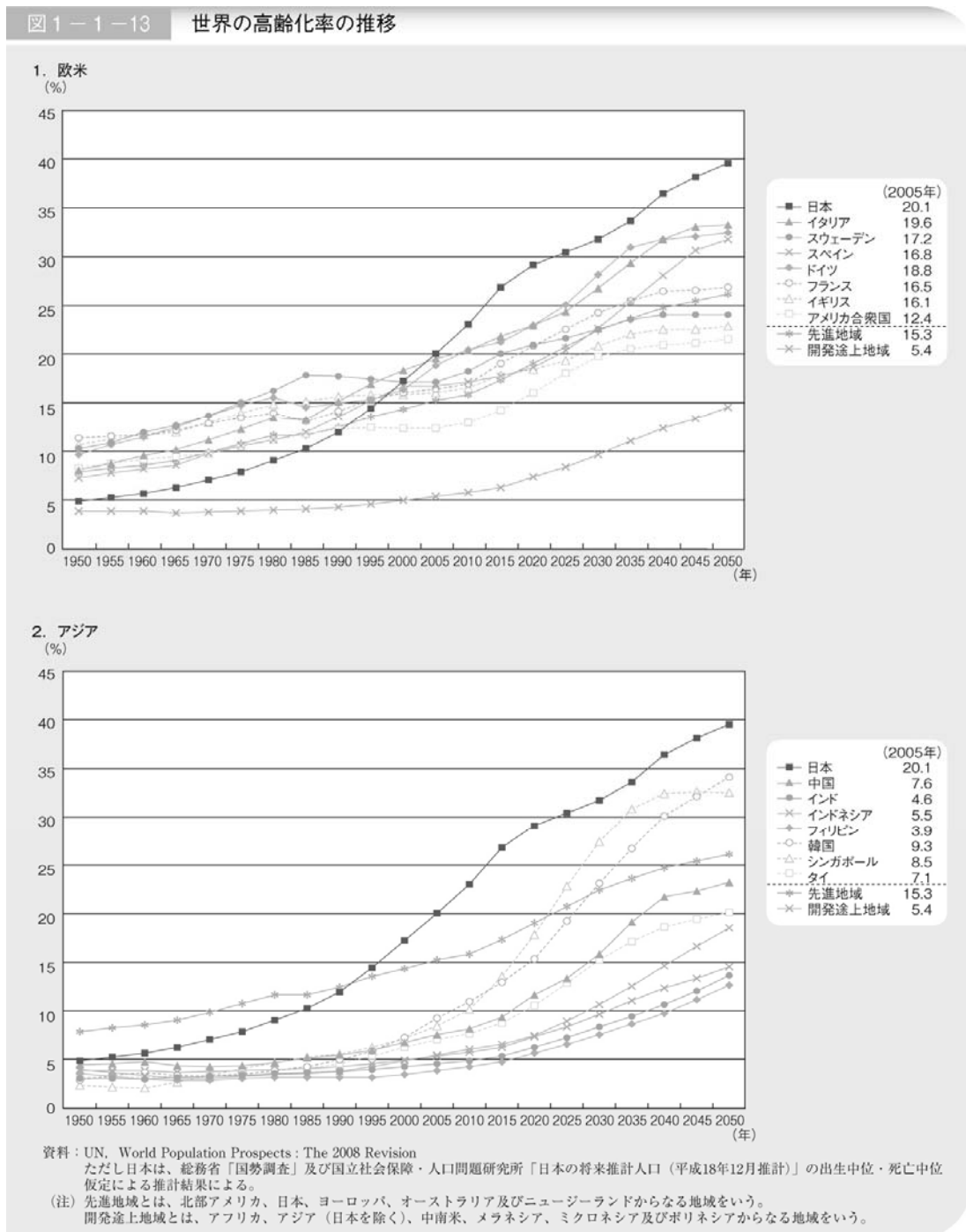
これは15歳から64歳層の方を支え手と考えて、それで65歳以上を何人で支えるかと。必ずしも別に65歳以上の方がみんな支えられる側だと思わないんですが、仮に15から64歳層が支え手で、65歳以上の方が支えられるほうに回ったと考えた場合に、何人で支えるのかというのが、この左側の (A) の数字が、年が変わるごとにどうなっていくか、というのが並んでございます。2009年ですと2.8人で1人を支えていたという状況が、2055年には1.3人で1人を支えるというふうな状況になるということが、ここの表で書いていることでございます。

(図 1-1-7) をご覧ください。



これは今申し上げた高齢化率の話とセットの話でございますけれども、平均寿命、大変これはよいことなんですけれども、ずっと平均寿命は伸びてございまして、現在は男性が79.29年、女性が86.05年で、さっき申し上げた将来推計の一番後ろの2055年には、女性は何と90歳を超えるということで、本当に大変めでたいことだとは思いますが、女性は90年時代。男性も83.67ということでございます。

(図1-1-13)でございますけど、これは諸外国比較でございます。



諸外国で上がヨーロッパやアメリカと比べてとき、下がアジアの国と比べてときでございますけれども。もう21世紀初頭、2000年を超えたあたりでもう日本の高齢化率っていうのは、諸外国と比べて一番上に出てきまして、そのトップの状態がずっと2050年まで続いているというふうな推計が出ています。諸外国も高齢化率は増えてはいますが、日本はそれでも群を抜いておりまして、参考にできるような国がなくて、先行して、世界が経験したことの無い高齢社会にこれから入っていくというふうな状況でございます。